



日本皇帝陛下ノ金剛艦ヲテシヨシ、モヒ一ノ一等校隊

保徳トテ一千八百七十七年十月ヨリ一千八百七十八年十二月至ル

任ヲ解連ニ等校隊司令トシテ同月より一千八百七十九年七月

至ル誠實ニ職務ヲ勉勵シ定約ヲ踐テ先旨該艦長任

務甚重トシ其任ヲ深ク以テ喜悅ニ其箱蓋ニシテ

明々カ余此ニ官印ヲ捺シ以テ同付ニ授付ス

明治十三年八月廿日

海軍卿

0713

剛筆九千九百

概算主モルヒ一 註状の書為の概

之は付上請

當所概算主モルヒ一 解雇の時

本以の註状の持与、おの則本人の

り、新多きあや、然れども、註状の奉

人生、居る、好差、之、其、年、月、日、

如キハ、海、手、上、概、換、上、其、係、生、之、其、先

係、除、概、算、主、モ、ル、ヒ、一、日、可、以、化、ナ、ラ、多、新、多、

五、好、上、則、以、中、之、一、等、概、算、係、除、上、ナ、リ、テ

二十、以、乃、七、千、七、百、五、十、月、日、一、千、以、乃、七、千、八、年

十二月、之、至、り、其、任、ヲ、解、キ、其、之、一、等、概、算、主

外、以、乃、六、百、十、三、一、

外、以、乃、六、百、十、三、一、

百、四

毎、頁、一、百

外、以、乃、六、百、十、三、一、

0714

りナリテ日月が二十七年九月廿七日  
トシ他  
此方有之上請  
呈し給ふ事

楊海軍大臣

金剛艦

二十七年九月廿七日  
西平上佐

金剛艦乗組員  
西平上佐

金剛艦乗組員英國人モルビー

而も遺日申出之上別紙證状

候處右証状ハ本人生屋ニ

相関ニ取故同人保陰撤閑士タリシ日

0715

御記入被下度奉入 方申出之趣ヲ以テ  
同船長方前書之通 申出之趣ヲ以テ  
入之未船長之揮下ニ屬セシ以來之証狀  
面ニ示下後之義至當之義ト存候得共  
申出ニ依リ此旨申出仕候也

十二年八月二日

東海鎮守府司令長官

海軍中將伊東祐磨



海軍卿川村純義殿

0716

東外入赤六十号

注  
軍  
省

0717

日本皇帝陛下ノ金剛艦ニ於テジヨニモル七一氏一等機関  
司トシテ千八百七十八年十二月ヨリ千八百七十九年七月マデ  
誠實ニ職務ヲ勉勵シ定約ヲ踐了シタル旨該艦長  
伊藤海軍大佐真状ニ依リ深ク以テ喜悅シ其相違  
ナキヲ證明スル為メ余此ニ官印ヲ捺シ以テ同氏ニ授付ス  
明治十二年七月二十二日

海軍中將兼參議海軍卿從四位勳一等川村純義



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

海軍省

0719